

令和6年度ワークショップ「TNGR（つながる）」全体会 実施結果について

1 ワークショップの目的

ワークショップ「TNGR（つながる）」は、市の将来を担う世代や地域の協働の新たな担い手の視点により、まちづくりに対する課題等を抽出することを目的としている。

2 開催日時

令和6年9月2日（月）午後1時30分から午後4時30分まで

3 開催場所

奥州市水沢地区センター会議室1及び2

4 参加者の状況

(1) ワークショップ参加者

区分	人数
地方創生の推進に関する包括連携協定締結企業、地域循環社会の推進に関する連携協定締結企業	12名
奥州市協働のまちづくりアカデミーの修了生	6名
市職員	5名
計	23名

※ 当日は、参加予定者のうち6名（企業：2名、協働のまちづくりアカデミー修了生：2名、市職員：2名）が欠席。

(2) 発表聴講者

区分	人数
地方創生の推進に関する包括連携協定締結企業、地域循環社会の推進に関する連携協定締結企業	1名
市職員	10名
計	11名

(3) 専任アドバイザー

特定非営利活動法人まちサポ零石 理事長 櫻田 七海 氏

5 当日のプログラム

(1) 開会

(2) オリエンテーション

前回のワークショップの振り返り、本日のワークショップの進め方について説明。

(3) ワークショップ

前回のワークショップを踏まえ、発表内容整理し、企画・提言書を作成した。

(4) 各班からの企画・提言の発表

話し合った意見、アイディアのうち、参加者自らが実践できそうなものは企画、市や包括連携協定企業へ実施を期待するものについては提言として発表を行った。

①各班からの発表：1班当たり10分 質疑応答：1班当たり10分

②発表内容への意見の記入

発表内容への意見を付箋用紙に記入し、専用の用紙に貼り付け各班へ提供した

(5) 講評

専任アドバイザーからの講評及び市職員からのコメント

(6) 事務連絡・閉会・アンケート記入

6 全体会の結果（概要）

1 班：若者の地元定着を促進させるための対策について
【班の構成】 5名（企業：3、アカデミー：2）
【ファシリテーター】 協働のまちづくりアカデミー修了生 小 野 優（第1期） 協働のまちづくりアカデミー修了生 若槻 慎也（第9期）
【発表内容（概略）】 ●プロジェクト名 メイプルNEOイオンモール化 ●奥州市の現状 自然が豊かだが、若者が魅力的に感じるレジャー施設やイベントがない。 ●将来の奥州市になってほしい姿 若者が地元から出ていく必要がない魅力がある市になってほしい。そのために、商業施設等、若者が楽しむことのできる場が必要であると考え。具体的にはメイプルを利活用した取り組みで、同施設の立地の良さ（水沢駅から近く、周辺にホテルや飲食店もある）に着目した。 ●具体的な事業内容 ①企画：若者へのメイプル利活用のアンケート 若者（学生）にメイプルに何があれば良いかをアンケート調査によってニーズを把握する。市内公立中学校にてTNGR有志メンバーが奥州市と連携して実施する。 ②提案：メイプルのイオンモール化 メイプルの再生・活用の一案として、同施設のイオンモール化を奥州市へ提言した。 ③提案：メイプルの利活用 同施設内に期間限定イベントスペースを設置する案を奥州市へ提言した。イベントスペース内では、グルメ祭りを市内飲食店とコラボして開催。 また、施設内にYouTube配信者等への貸事務所を設置し、奥州市へ移住したいと考えている市外在住者へ向けて、移住するためにどの程度の費用がかかるか等、奥州市での暮らしに関する情報を発信していただくなどの案も挙げられた。 【意見・感想】 ●市職員より 若い世代がメイプルを何とかしたいという思いがあるうちに、その声を反映させながら同施設の再生・利活用に組み込んでいきたいと考えおり、民間会社と連携して取り組みを進めているとことである。 今回のような提言をいただくことができ、とても参考となったので、ぜひ、今後の取り組みについて一緒に考えていけたらと思っている。 ●参加者より 新たに施設を新設するのではなく、既存の施設を利活用するという発想が良かった。また、YouTube配信者へ情報発信を依頼するという案がユニークな発想だった。



プロジェクト名：
マイポルのNEOイオンモール化

TNGR2024
事業案

【若者の地元定着を促進させるための対策について】

【奥州市の現状】
自然が豊かだが、若者が魅かに
感じるレジャー施設やイベントがない。

【メンバー】
宗村和輝 干田 愛理 菊池 史哉
三浦 萌華 若槻 慎也 小野 優

将来の奥州市になって欲しい姿
地元から出ていく必要がない魅力がある市

【そのための具体的な事業内容】
【手段 / いつ・どこで・誰が(と)・何を・どのように・資金】

企画 若者(学生)にマイポルに何があれば良いかを直接聞く。(アンケート)
2025年4月、市内公立学校でTNGR有志メンバーが市と連携し実施

提案 マイポルのイオンモール化
2025年4月～実施 / マイポルにて / キールズと市

提案

- マイポルを期間限定イベント施設に
- イベントスペースにてグルメ祭り等を市内飲食店とコラボして開催
- ・YouTuberに奥州市をPRしてもらう。(マイポル内に貸事務所)

【なりたい姿】※絵を描いたり、写真を貼ったり自由に使用可

YouTuber 活用
学生
〇〇が欲しい!!!
マイポル
ホテル
グルメイベント
そのまま宿泊!!

2班：若者の地元定着を促進させるための対策について
【班の構成】 5名（企業：3、アカデミー：1、市職員：1）
【ファシリテーター】 協働のまちづくりアカデミー修了生 菅原 喜文（第6期）
【発表内容（概要）】 ●プロジェクト名 よくはたらきよくあそぶ！～若者キラキラプロジェクト～ ●奥州市の現状 市内の若者（高校生や大学生）の地元企業への就職率が100パーセントではない。そのことについて複数理由がある中で、「若者が地元で就職して働き、いきいきと生活することができるイメージができないのではないか」という点に着目した。 ●将来の奥州市になって欲しい姿 現状のような若者の考えを払拭し、地元で就職しても、いきいきと生活できるイメージを市内の若者に持って貰えるような奥州市になってほしい。 ●具体的な事業内容 ①提案：奥州お仕事図鑑（動画） 地元での働き方を知る手段として、市内の企業についての仕事内容や魅力などを動画形式でまとめ、市内中高生に向けて教育の場や自宅で閲覧できるように配信する。中学生も対象としていることから、市教育委員会への提言とした。 ②提案：20代市民限定 満喫ポイントプログラム よく働き、よく遊びながら市への帰属意識（郷土愛や生活の満足度）を高めるために、市内の宿泊・レジャー施設、飲食店等で利用可能な電子マネーやポイントを付与する案を奥州市へ提言した。 ③企画：企業×学生 ランチミーティング 中高生を対象に就職活動のために、飲食をしながら実際に企業や官公庁で働く先輩方の声を聞くことができるイベント。1回目は官公庁、2回目は美容関連企業、3回目は製造関係企業など、回で業種を変えて実施する。 【意見・感想】 ●包括連携協定締結企業社員より 企業としても、人手不足が一番の悩みであり、学生が地元企業が存在を認知していないというのが現状である。実際の仕事内容などは、話を聞いているだけではわかりづらいところもあるため、動画形式で業務風景を発信すればとてもわかりやすく、良い提言だと考える。 また、企業において社員を雇用してもすぐに退職してしまうこともあり、人材のミスマッチが起きている。実際にその企業などで働いている先輩からの話を聞く取り組みは人材のミスマッチを防ぐ意味でもとても良いと考える。 ●参加者より ランチミーティングの提案は、緊張がほぐれるという面もあるし、市内企業を知らない学生も多いと思うので、よいと思う。 また、私（質問者）は市の広報誌の作成を担当しており、「広報おうしゅう」で

も、2班が提案したお仕事図鑑のように、市内企業を取り上げるコーナーをつくろうと思っていたので同様の趣旨の提言を聞くことができて良かった。



プロジェクト名: **よくはたらきよくあそぶ!**
～若者キラキラプロジェクト～

TNGR2024
事業案

【若者の地元定着を促進させるための対策について】

【奥州市の現状】
 地元就職希望が100%じゃない
 ↳地元企業で働き、住み続けたいイメージの不足?

【メンバー】
 渡辺 美咲、坂本 弥生、伊藤 由衣、
 司東 隆光、菅原 喜文、菅原 梨沙

将来の奥州市になって欲しい姿
 若者が地元でいきいき働き、よく遊んでいる。

【そのための具体的な事業内容】
 【手段 / いつ・どこで・誰が(と)・何を・どのように・資金】

提案 **奥州お仕事図鑑(動画)** 教育委員会主導
 地元での働き方を知る手段として / 教育の場や自宅で / 中高生が
 図鑑や動画を / 自由に / 原資は企業の掲載料

企画 **企業×学生 ランチミーティング** コーディネーター: 事務局主導
 就活のために / 実際に働く先輩の声をきく / GW、夏休み、冬休みに
 一緒に食事をしながらお互いのQ&Aに答える / 企業の経費補助金活用

提案 **20代市民限定 満喫ポイントプログラム** 市主導
 よく働き、よく遊びながら帰属意識を高めるために / 宿泊やレジャー、娯楽施設、飲食店、
 電子マネーやポイントを付与 / 原資は補助金・提携施設

【なりたい姿】※絵を描いたり、写真を貼ったり自由に使用可

SHOP CAFE

就活メシ 3.25

企業×学生の
ランチ交流会

お仕事
ずかん

3班：若者の地元定着を促進させるための対策について
【班の構成】 5名（企業：2、アカデミー：1、市職員：2）
【ファシリテーター】 協働のまちづくりアカデミー修了生 阿部 高志（第7期）
【発表内容（概要）】 ●プロジェクト名 若者交情（こうじょう）推進委員会プロジェクト ※交情・・・「交流」と「情報発信」を掛け合わせた造語 ●奥州市の現状 交流できる場（若者同士の交流、企業と若者の交流）が少なく、そういった場に関する情報を得る手段がない。 ●将来の奥州市になって欲しい姿 若者が楽しめて、子育てもできて、若者同士が交流することができるまちになってほしい。そのために、若者と企業マッチングの機会創出や、子育て世帯に向けた交流イベントの実施に着目した。 ①具体的な事業内容 企画：地元でカンパイ！社長の本音部屋 地域づくりに協力している企業の社長が3人程度集まって対談する動画を作成。 対談は、各企業の説明、若者に望むこと、奥州市の将来像、地元企業として取り組めることなどを取り上げ、市内企業と若者の新しいマッチングの機会とする。 ②提案：閉校舎の利活用 閉校舎を活用した、子育て世帯へ向けた交流イベントの実施を提言した。教室ごとにテーマをわけて実施（1階は飲食ブース、2階は市内企業：ものづくり、体験の場等）。また、体育館では0～6歳児の遊びや親同士の交流の場とし、1回だけの開催だけではなくある程度回数を行い、参加者同士のつながりをつくる等の案が挙がった。 ③提案：市内地区センターでのイベント実施 子育て世代の若者が抱えている悩みを解消し、親同士が交流できる場をつくる案を提言した。0～6歳くらいの子どもたちとその両親を対象とし、講師を招き、子育ての相談会を行うとともに、地元飲食店に協力をもらい、飲食ブースを設ける。併せて、家族写真の撮影ブースやバザーや子供服の譲渡会などを行う等の案が挙がった。 【意見・感想】 ●市職員より 市内地区センターを活用して子育てをしている若者を対象にしたイベント開催を提言されたが、市子育て支援センターでも6歳までの未就園児が来ることができる施設が市内30地区に必ず1つはあるので、そういったところと連携していくとやりやすいのではないかと思います。 また、バザーや子供服の譲渡会に類するイベントについても、高校生が社会福祉協議会主催のイベントにおいて、実施しているところだったので、市内各地で取り組みを広めるといった意味でよい提言だと感じた。

●参加者より

同じ悩みを抱える子育てをする方々が互いに交流できる場をつくるのは良いと感じた。



プロジェクト名:

若者交情推進委員会プロジェクト

TNGR2024
事業案

【若者の地元定着を促進させるための対策について】

【奥州市の現状】

- ・若者が交流できる場がない
- ・若者向けの情報の取得が難しい

【メンバー】

- ・鈴木 美紅 高橋 利斗 高橋 潤
- ・小野寺 麗芽 佐々木 翔琉 阿部 高志

将来の奥州市になって欲しい姿

若者が楽しく、子育てができて、新しい交流の場を作る！

【そのための具体的な事業内容】

【手段 / いつ・どこで・誰が(と)・何を・どのように・資金】

企画

地元でカンパイ！社長の青春部屋

市内企業と若者の新しいマッチングの提供(市内飲食店紹介)

▶地域ごとに協力している企業・社長の3人集まって対談 / 初回 2024年1月1日放送(市YouTubeで)
企業説明若者に聴いて(マメル)、奥州市の将来像、地元企業として取り組みのこと、次回予告

提案

学校と利用

教室ごとにテーマを分ける(1階は飲食ブース、2階は市内企業)校庭は子供向けの遊び場
市と若者の協力で施設使用の許可。体育館 0~6歳時児の遊び、交流の場
1日1回の開催 1ヶ月程度程度行い、若者同士のつながりをつくる

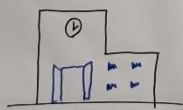
ものづくり、体験の場

提案

地区センター(水沢・胆沢・前沢・江刺・衣川)

子育て世代の若者が抱えている悩みを解消したり、父母が交流できる場をつくる。0~6歳くらいの子と世代とその父母を対象とする。
内容...講師の先生を招き若者の相談会やセミナーを行う / 地元飲食店に協力して食事・飲食ブースを設ける
家族写真の展示 / 子育て服ばさ・お中元会

【なりたい姿】※絵を描いたり、写真を貼ったり自由に使用可



4班：アウトドアアクティビティの市民への普及と必要な体制について
【班の構成】 4名（企業：2、アカデミー：1、市職員：1）
【ファシリテーター】 協働のまちづくりアカデミー修了生 齋藤 優（第9期）
【発表内容（概要）】 ●プロジェクト名 あつまれ！！アウトドアグラマーin奥州 ●奥州市の現状 休日にアウトドアアクティビティを体験したいときに、どのような場所やメニュー内容等があるのか市民が認知しておらず、周知が足りていないこと、また、イベント自体に人が集まるような魅力がない。 ●将来の奥州市になって欲しい姿 SNSを活用した情報発信を行い、イベントに参加した方が体験したことを拡散したくなるようなプログラム案とすること、恒例イベントの開催されるような奥州市となつてほしい。 ●具体的な事業内容 ①企画：情報発信と絡めた景品配布キャンペーンの実施 4～10月に奥州湖周辺でアウトドアを体験した方が、Instagramで実際にアクティビティを体験した様子を投稿。#（ハッシュタグ）をつけた方に抽選で景品を贈呈する。 ②企画：親子向けのカヌー体験会実施 8月中旬に馬留池にて親子を対象としたカヌー体験会を実施。元市地域おこし協力隊である、藤野浩太氏に講師を依頼し、参加費を1組1,500円で設定し実施する。 ③企画：SUP教室の開催 7月に奥州湖にて親子を対象としたSUP教室を行う。THE BLUE SUP と連携し教室を開催。1組参加費を1,500円に設定し、SNSでの体験の様子を投稿することで参加費を割引く。 【意見・感想】 ●市職員より 市内では、まだまだアウトドアアクティビティが市民に文化として根付いていないと感じている。市民に普及させていくためには、まずは知っていただくことが大事なことであると認識している。 一方で、SNSの有効性を理解しつつも、年代が上の職員だとどうしても、SNSでどのように発信していくのかなどが具体化できていないのも現状である。 市から発信するのみならず、参加いただいた方自らが発信することが有効な手段であるということを感じたので、今後のアウトドアアクティビティの普及推進の取組みにぜひ活かしていきたい。 ●参加者より 割引など、市民が食いつくような制度はとてもいいという意見が挙がった。また、他にも既存コンテンツを活用した企画が多くて、実現可能性が高い企画であるとの意見も

挙げた。カヌー体験のイベントですね、予算や講師まで細かく設定していて、詳しく考えられていたのがとても素晴らしいなと感じた。



プロジェクト名：
あつまれ!! アウトドアグラマー in 奥州

TNGR2024
事業案

【アウトドアアクティビティの市民の普及と必要な体制】

【奥州市の現状】

イベントの魅力が市民への周知不足

【メンバー】

若松 萌, 門脇 安彦, 小野寺 郁人,
齋藤 優, 千田 俊彦, 蜂須賀 魁

将来の奥州市になって欲しい姿

SNSを活用し、拡散したくなるような体験や恒例イベントの開催

【そのための具体的な事業内容】

【手段 / いつ・どこで・誰が(と)・何を・どのように・資金】

企画

4月～10月 / インスタグラム / 奥州湖周辺でアウトドア体験をした方
体験をしている様子も投稿 / #をつけた方に抽選で景品を贈呈
~~無料~~ 景品は奥州市

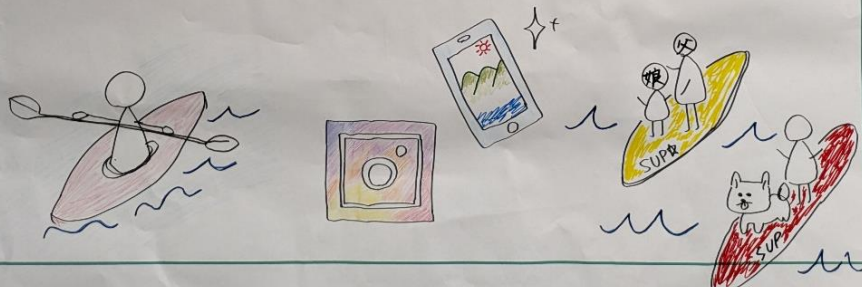
企画

8月中 / 馬留池 / 親子 / カヌー体験 /
藤野浩太さん(講師) / 参加費用 1組 1,500円

企画

7月 / 奥州湖 / 親子(※) / SUP /
THE BLUE SUP 社の教室 / 参加費用は 1組 1,500円 (SNSへの拡散で割引)

【なりたい姿】※絵を描いたり、写真を貼ったり自由に使用可



5班：アウトドアアクティビティの市民への普及と必要な体制について
【班の構成】 5名（企業：2、アカデミー：1、市職員：1）
【ファシリテーター】 協働のまちづくりアカデミー修了生 伊藤 早織（第8期）
【発表内容（概要）】 ●プロジェクト名 奥州アウトドアリゾート開発プロジェクト2ORP（ダブルオーアールピー） ※2ORP・・・Oshu Outdoor Resort Project の頭文字をとったもの ●奥州市の現状 アウトドアを市民に普及させるための体制が整っていない、アウトドアアクティビティが市民に認知されていない ●将来の奥州市になって欲しい姿 目指せニセコ！！アウトドアリゾート地！！北海道ニセコ町をモデルとしたアウトドアリゾート地のようなまちになってほしい ●具体的な事業内容 ①提案：主体的に進めるプロデューサーの募集 アウトドアアクティビティを市民に普及させるための体制を整えるため、プロデューサー（地域おこし協力隊等）を募集するとともに、市でアウトドアアクティビティの推進に特化した部署を設けていただくといった案を奥州市へ提言した 最終的には、母体を第三セクターの形に移行し、市内企業やNPO法人与連携しながら事業を進めていく構想案も挙げられた。 ②提案：イベントの実施 アウトドアアクティビティ競技者や関係者のみならず、広く市民が楽しむことのできる企画を企業と連携して実施案を奥州市へ提言した。具体的には、ドッグランや屋外読書、屋外映画鑑賞、手ぶらBBQ、農業体験、古民家宿泊など。 ③企画：情報発信の取組み 既存の市の公式SNSの閲覧者をより増やし、アウトドアアクティビティの認知度を高めるために、県内で活躍するお笑いタレントを起用したPRを行う。また、市と連携協定を結んでいる株式会社モンベルに協力を得ながらのPRや、市公式マスコットキャラクターのおうしゅうたろうのデザインを手がけた吉田戦車氏にカヌーの物語を書いてもらう等の案が挙げられた 【意見・感想】 ●市職員より ・事業を進めるにあたって、軌道に乗るまでは、公的な機関の部分で引っ張っていく手法や、観光関係の組織が発達しているところであれば、そういったところが核となって、事業を展開していくなど様々な形があると考えます。飯山市では、市の中でアウトドアアクティビティ専門の部署を立ち上げて市が取り組みを推進する事例もある。奥州市では、その辺りを今後どのようにしていくかといったところを議論しており、その中の考え方の1つとして今回の提案を参考とさせていただきたい。 ・市のアウトドア専門部署の立ち上げの話については、事業を強力に推進していくためには、1担当者が頑張るだけでは大変なのではないかという意見も内部で挙がっている

る。市では現在、様々なプロジェクトが動き出しており、横の連携をとりながら事業を進めているところである。アウトドアに限らず、それぞれの事業に必要な体制を模索しながら、取り組みを進めていくので、今後も様々な提言をいただけたら嬉しい。



プロジェクト名：
奥州アウトドアリゾート開発プロジェクト 2024

【アウトドアアクティビティの市民の普及と必要な体制】

【奥州市の現状】
推進体制が定まらない。認知が足りない。

【メンバー】
佐々木 あり、三國 翼、朝倉 友香

将来の奥州市になって欲しい姿
目指せセコ!! アウトドアリゾート地!!

【そのための具体的な事業内容】
【手段 / いつ・どこで・誰が(と)・何を・どのように・資金】

提案 主体的に進めるプロモーターの募集(地域起し協力隊)
市のアウトドア課 → 第3セクター → 民間へ そのための支援

企画 情報発信 今あるSNSをバズらせるために
1. 芸能人 天津木村さんなど ご当地芸能人に依頼する。
2. 吉田戦車さんにカヌー物語を聞いてもらう

提案 競技者もそうでない人も楽しめる企画を企業と連携して実施
例: ドックラン、屋外読書、屋外映画観賞、おらBBQ
農業体験、古民家宿泊

【なりたい姿】※絵を描いたり、写真を貼ったり自由に使用可

奥州
アウトドア
リゾート
プロジェクト
TNGR2024
事業案
大学や
専門学校に
募集
CM 市民に
体験する
機会を増やす
ふるさと納税
のついで